

「次世代シーケンス技術による結核菌分子疫学検査の高精度化と感染制御に関する研究」
に關係する市民の皆様へ

2003 年以降に結核（菌培養陽性）と診断され、神戸市保健所により結核菌株の収集が行われた全ての方が、神戸市健康科学研究所が行う「次世代シーケンス技術による結核菌分子疫学検査の高精度化と感染制御に関する研究（研究期間：2021 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）」の対象となる可能性があります。下記の研究概要をご覧になって、この研究について何か分からないことや心配に思われることがありましたら、以下の研究責任者にご連絡ください。また、本研究における調査を希望されない場合も以下の研究責任者にご連絡ください。なお、解析を既に終了している場合にはお申し出いただいても、ご希望に応じられない場合がありますことをご理解ください。

研究責任者：岩本 朋忠（いわもと ともただ）

〒650-0046 神戸市中央区港島中町 4-6-5

神戸市健康科学研究所 感染症部

Tel: 078-302-6305、Fax: 078-302-6240

[背景]

新たに結核を患う人の数を減らすためには、感染の拡がりを防止することが重要であり、そのためには、どのような菌がどの程度拡がっているのかを知る必要があります。結核菌の遺伝子を詳しく調べることで、どのような菌による感染が拡がっているのかが分かります。このような検査を分子疫学検査といい、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において、積極的に実施することが推奨されています。今回、当研究所が取り組んでいる研究では、次世代シーケンス技術という最新の遺伝子解析技術を用いて、分子疫学検査の精度の向上と、結核菌の感染のし易さや薬剤への耐性化などについての原因の解明を目的としております。

[調査の対象]

2003 年(平成 15 年)以降に神戸市での分子疫学調査の対象となった方（2017 年9月現在で約 3000 名）から、今後の公衆衛生対策の向上のために、より詳細な解析が必要であると認められた事例に關係する方を対象とします。対象者の選定は、採取された結核菌の病原性、感染性、薬剤耐性を考慮して行い、研究期間中に約 600 名の方を対象に調査を行う予定です。

[調査方法]

当研究所に保存している結核菌株を用いて、次世代シーケンス技術による詳細な遺伝子解析を、当研究所にて行います。得られた結核菌の遺伝子情報との関連性を考察するために、調査対象となる方の年齢・性別・居住区(暗号化して取り扱う)・出生国(暗号化して取り扱う)、診療情報（初発・再発の区別、肺結核・肺外結核の区別、発症日、試料採取日、菌株

の分離日、臨床症状、海外渡航歴、基礎疾患の有無等)、および、薬剤感受性試験結果と遺伝子型別解析結果を使用いたします。なお、本調査は、既に当研究所に保存されている結核菌株と検査結果を活用するものですので、調査対象となる方への不利益はございません。

[調査対象者の個人情報の管理について]

解析にあたっては、匿名化が行われます。お名前、生年月日など個人を特定できる情報が外に出ることが無いように情報は厳重に管理いたします。また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文など)の際には、個人を特定できる情報は一切含まれません。